

昭和十四年十二月二十五日 印刷 納本  
昭和十五年一月一日(毎月一回一日發行)

禁轉載

# 道路の改良

第二十二號

第一號

社団法人  
道路改良會

鋪裝報國

東京・丸之内

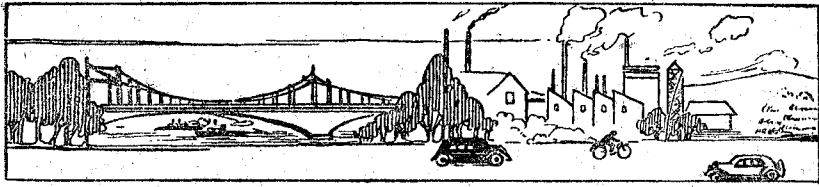
日本鋪道株式會社

社長 淺利三郎

東京・大阪・福岡・札幌・京城・盛北・新京・福留・名古屋・京都

大阪府別府長崎名古  
所端氏  
東京電話三三三番

東京區三橋  
東京電話三三三番  
東京區三橋



『道路の改良』第二十二卷第一號 目次 昭和十五年一月一日發行

口繪 大師野橋 東京府・神奈川縣  
那須野橋 栃木縣

卷頭言

論說

迎年の辭 ..... 道路改良會長 水野鍊太郎(三)

年頭所感 ..... 道路改良會常務理事 山崎巖(六)  
內務省土木局長

支那に於ける道路と河川交通に就て ..... 經濟學博士 橋崎敏雄(二〇)

資料

那須野橋架設工事 ..... 東京土木出張所 和田庄藏(元)

史料

律令制下に於ける道路及び道路附屬物の發達(四) ..... 千葉縣廳 渡部英三郎(三)

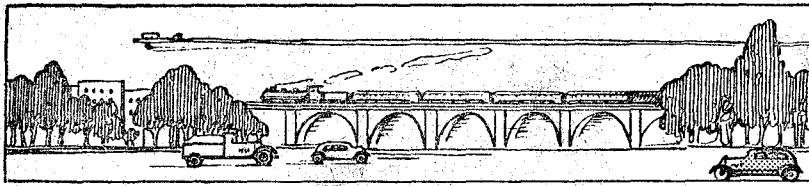
說苑

道路費の生れるまで ..... K A 生(五)

道路嵩上工事施行に伴ふ損害賠償事件に就て(四) ..... 高知縣廳土木課 瀧口利太郎(三)

北陸道親不知の天嶮開通成る ..... 渡邊丈貳(六)

茨城縣の災害救濟土木事業の執行と其の前後の情況(四) ..... 茨城縣廳土木課 瀧川勸則(七)



東北漫歩……………和泉生(三)

昭和十四年道路愛護週間實施經過……………秋田縣土木課(六)

時局日誌……………Y H 生(一〇四)

内務省特報

早害對策關係各省協議會要望事項、◎内務本省、警視廳、北海道、及府縣廳首腦部表……………(一三)

海外事情

獨逸に於けるアウトローバーンの工事進捗狀況と自動車工業の發達…其の他…T & T(一四)

地方通信

關東・東海・近畿・中國の各地方……………(一五)

法令

最近内務省に於ける路政關係行政處分例……………M O 生(一六)

逐條土地收用法資料(一五)……………高坂孝三(一六)

路政春秋

都市道路の御腹は防毒室……………其他……………(一五)

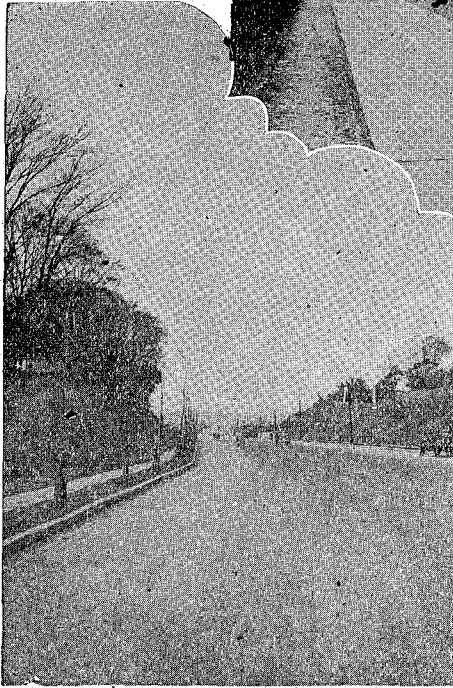
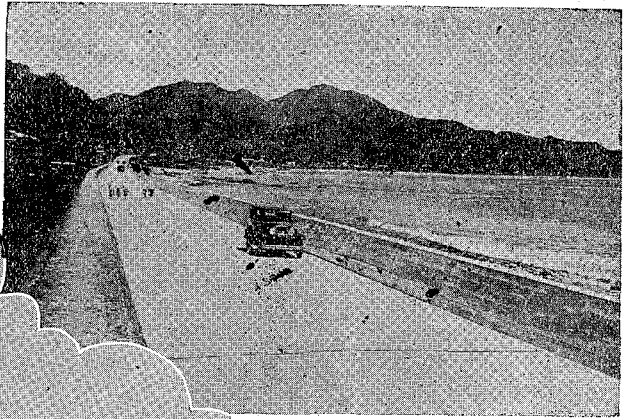
雜報

◎明十五年度豫算總額概算◎三大會社の創立◎我國民の壽命表◎近刊圖書雜誌……………(一七)

叙任辭令……………(一七)

編輯室の内外……………(一七)

静岡縣由比國道  
→  
ベロセメント使用



↑ 大宮街道志村附近  
淺野セメント使用

早 強  
アサノ  
ベロセメント

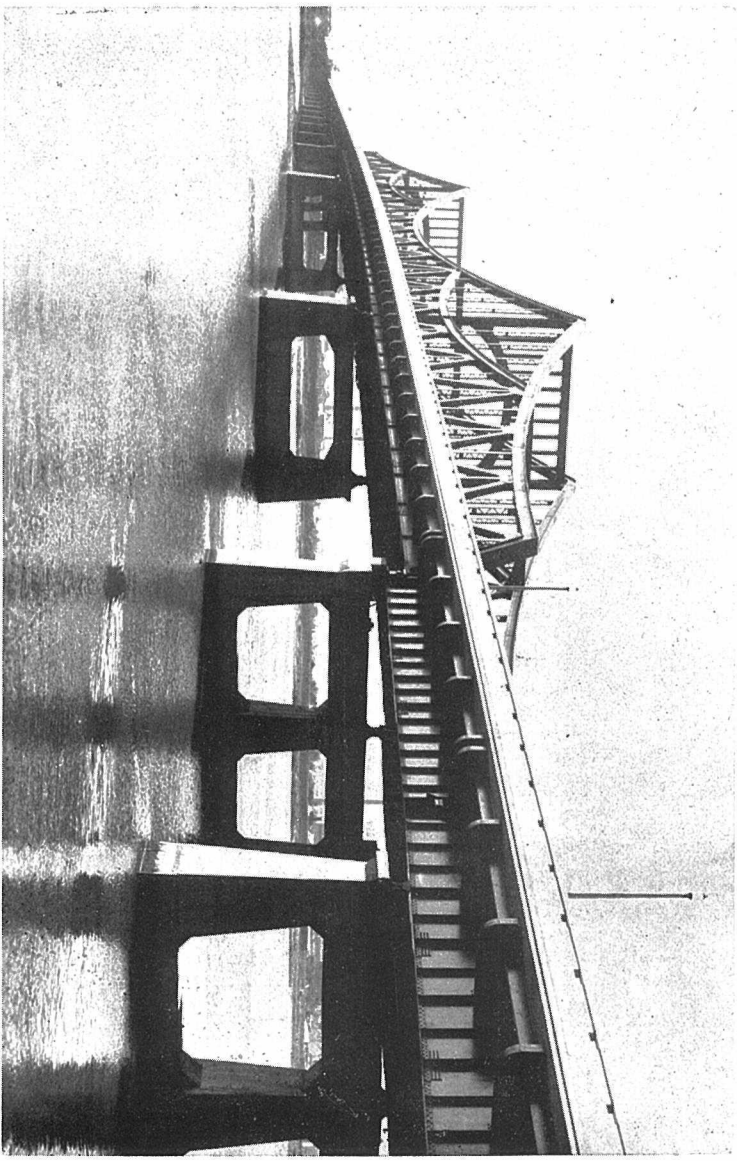
強 度 高 ク  
硬 リ 早 ク  
使 テ 經 濟

— 説明書御申込次第送呈 —

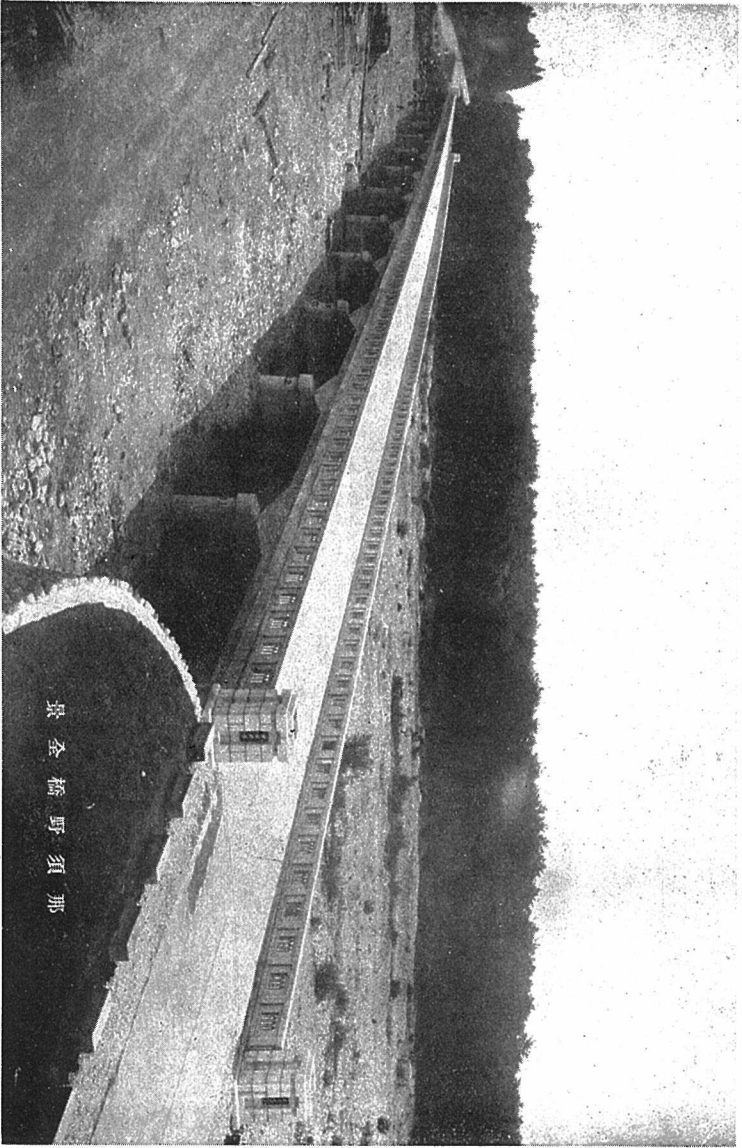
淺野セメント株式會社

東京市 丸ノ内 海上ビル

大 師 橋 (東京府・神奈川縣)



那須野橋 (栃木縣)



那須野橋全景

参照欄資料誌本



一般土木建築鋪裝  
材料製造販賣

國產ネオソリデチツト製造販賣  
 ネオソリデチツトブロック及各種コンクリート加工品製造販賣  
 ミクニアスファルト乳劑及ミクニアスファルト乳素製造販賣  
 ミクニエラストイト其他アスファルト加工品製造販賣  
 早山石油株式會社製アスファルト特約販賣  
 東邦石油株式會社製アスファルト特約販賣  
 日本製鐵八幡製鐵所製タール及鑛滓パラス一手販賣  
 日本鋼管株式會社製タール及鑛滓パラス一手販賣  
 大日本アスファルト製アスファルトブロック一手販賣  
 工業株式會社



日本ソリデチツト株式會社

一般土木建築各種  
鋪裝工事請負

型錄贈呈

本社 東京市京橋區京橋三丁目二番地(片倉ビル) 電話京橋二七七二、五三三二番  
 大阪出張所 大阪市東區北濱二丁目九〇番地(片倉ビル) 電話北濱三六一九番  
 九州出張所 八幡市竹下町一丁目八二六番地 電話八幡一八三三五番  
 名古屋營業所 名古屋市中區南大津通六丁目三番地(片倉ビル内) 電話中三三四九五番  
 北海道出張所 札幌市豊平五條三丁目八一番地 電話札幌三五三〇番  
 工場 品川、蒲田、大坂

# 謹賀新年

昭和十五年一月一日

## 道路改良會

(理事いろは順)

會長	水野鍊太郎	同	金子源一郎
副會長	橋本圭三郎	同	寬正太郎
常務理事	山崎巖	同	谷口三郎
同	山田英太郎	同	田中好
理事	挾間茂	同	辰馬鎌藏
同	岡田文秀	同	長岡隆一郎

同	監 事	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
西 野 元	大 橋 新 太 郎	鈴 木 清 秀	廣 瀨 久 忠	佐 上 信 一	佐 藤 利 恭	青 山 士	赤 松 小 寅	藤 井 眞 透	牧 彦 七	山 田 新 十 郎	中 川 吉 造	中 川 正 左

---

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	幹 事
平 井 良 成	小 島 效	淺 香 小 兵 衛	近 藤 欣 一	高 橋 敬 一	細 田 德 壽	武 若 時 一 郎	岩 澤 忠 恭	春 藤 眞 三	井 闕 正 雄	和 田 重 辰	福 本 柳 一	

謹  
賀  
新  
年

祈會員諸彥之御健康

昭和十五年一月一日

「道路の改良」編輯員一同

帝都交通界ノ新銳

澁谷—新橋—銀座—淺草直通

# 東京高速鐵道株式會社

本社 赤坂區表町二ノ一五

社長 門野重九郎

專務取締役 脇道譽

常務取締役 五島慶太

常務取締役 黑河內四郎  
技師長

訂補重版出來

# 道路職員必携

本書は道路改良計畫並に其の設計の指針として、本會が特に道路技術並行政の權威者に執筆を依嘱し完成したるもので、別記目次の如くその内容の豊富にして充實し居ること、其の記述精緻を極め居ること携帯に便なるハンドブックなること、印刷裝幀鮮麗にして優雅なること、道路構造令、街路構造令の細則に付きても記述せる點等に於て、我國にては未だ其の比を見ざる出版であり斯界人士の必須書である。

## 目次大要

第一編 總論	第一章 經濟統計調查	內務事務官 武若時一郎
第二章 道路統制	內務技術師 永野田	六年
第三章 交通通車	內務技術師 小澤忠	六年
第四章 道路設計	內務技術師 岩田	六年
第一編 道路設計	內務技術師 永田	六年
第二章 道路設計	內務技術師 岩田	六年
第三章 道路設計	內務技術師 永野田	六年
第四章 道路設計	內務技術師 小澤忠	六年
第五章 道路設計	內務技術師 岩田	六年
第六章 道路設計	內務技術師 永田	六年
第七章 都市計畫街路	內務技術師 岩田	六年
第八章 交通整理及街路照明的施設	內務技術師 岩田	六年
第九章 道路材料	內務技術師 岩田	六年
第十章 維持及修繕	內務技術師 岩田	六年
第十一章 砂利碎石道	內務技術師 岩田	六年
第十二章 水締碎石道	內務技術師 岩田	六年

三五刊  
レザークロース装函入  
總頁數 一千百餘頁  
定價 金五圓

送料 内地 壹部 金十四錢  
朝鮮、臺灣、樺太、  
關東廳、中華、滿洲  
壹部 金十八錢

第一編 總論  
第二章 道路統制  
第三章 交通通車  
第四章 道路設計  
第五章 道路設計  
第六章 道路設計  
第七章 都市計畫街路  
第八章 交通整理及街路照明的施設  
第九章 道路材料  
第十章 維持及修繕  
第十一章 砂利碎石道  
第十二章 水締碎石道

第三編 土工  
第四編 道路の排水設備

大阪府土木部  
工學博士 眞田秀吉  
大工部 長久保俊夫

京都府土木部長 坂本一雄  
福岡縣土木部長 平治

第五編 鋪裝の構造及施工

第一章	鋪裝の種類、得失及選定法	東京府土木部長 藤井眞透
第二章	砂利カダム道	東京市土木局長 坂崎平治
第三章	水縮マカダム道	東京市土木局長 山本亨
第四章	瀝青乳劑鋪裝	東京市土木局長 谷宗雄
第五章	タール鋪裝	東京市土木局長 奈良原輝雄
第六章	アスファルト鋪裝	東京市土木局長 森吉
第七章	セメント・コンクリート鋪裝	東京市土木局長 本間雅治
第八章	塊鋪裝	東京市土木局長 大石義郎
第九章	特殊鋪裝	東京市土木局長 折坂理五郎
第十章	歩道鋪裝	東京市土木局長 藤井眞透
第十一章	軌道敷内の鋪裝	東京市土木局長 山井眞透
第六編 工物		
第一章	橋梁及溝橋	東京市土木局長 佐藤利恭

特價金三圓五十錢にて頒つ

本會會員又は學生に限り

發行所 發賣所

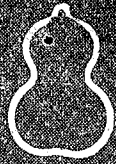
社団法人 好道館書店

東京市小石川區諏訪町五十六番地  
電話小石川(85)二二七七、二二七八、二二七九番

第十一編 道路用器具機械

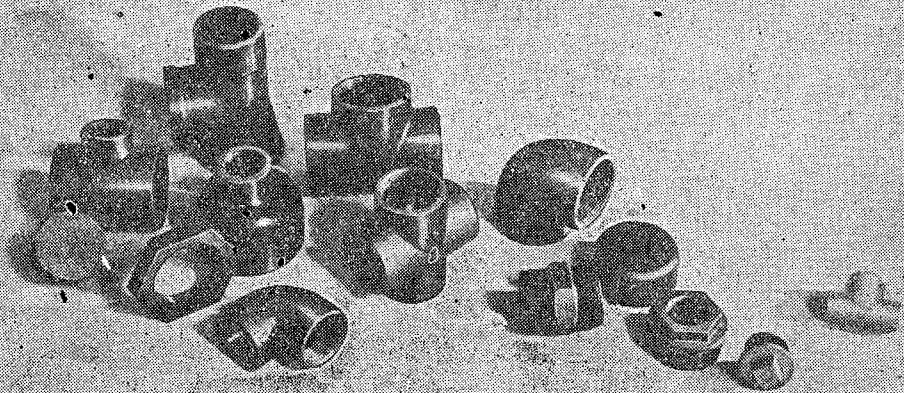
第十二編 示方書

第一章	水縮砂利道及水縮マカダム道	東京市土木局長 山本亨
第二章	アスファルト乳劑鋪裝道	東京市土木局長 堀信一
第三章	基礎用アスファルト・コンクリート道	東京市土木局長 堀信一
第四章	アスファルト・コンクリート鋪裝道	東京市土木局長 堀信一
第五章	シート・アスファルト鋪裝道	東京市土木局長 堀信一
第六章	セメント・コンクリート鋪裝道	東京市土木局長 堀信一
第七章	アスファルト・ブロック鋪裝道	東京市土木局長 堀信一
第八章	小鋪石鋪裝道	東京市土木局長 堀信一
第九章	煉瓦鋪裝道	東京市土木局長 堀信一
第十章	鋪木鋪裝道	東京市土木局長 堀信一
第十一章	道路鋼橋	東京市土木局長 堀信一
第十三編	法規(道路體係法規)	東京市土木局長 堀信一
附録	測量に關する諸表、重要な常識數値、數學公式、平面形、面積及重心、立體の體積及表面積、桁の反力、彎曲率表、度量衡比較表、道路用語	東京市土木局長 堀信一



# 印 鐵管 繼手

高壓繼手類  
手摺用繼手類  
ハンドル類  
グリースカップ類



## 日立製作所

東京・丸の内



初詣は恵方の  
運除厄 西新井大師へ



池袋駅前より片道 20 銭  
坂本二丁目

飛鳥山前より片道 15 銭  
王子驛

王 電 バ ス

東京市豊島区西巢鴨三丁目九六五

電話大塚(86) 445. 2184. 3392  
446. 2524.

紀元二千六百年

# 神詣

伊勢大神宮  
熱田神宮  
檀原神宮

石上神宮

天理驛下車

大神神社

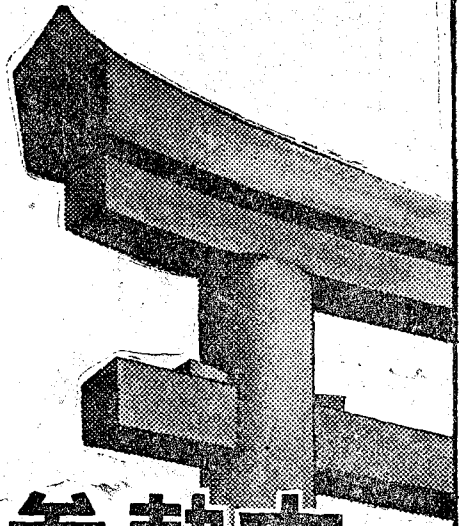
櫻井驛下車

奈春日神社

大軌奈良驛下車

枚岡神社

枚岡驛下車



## 大軌參急電鐵

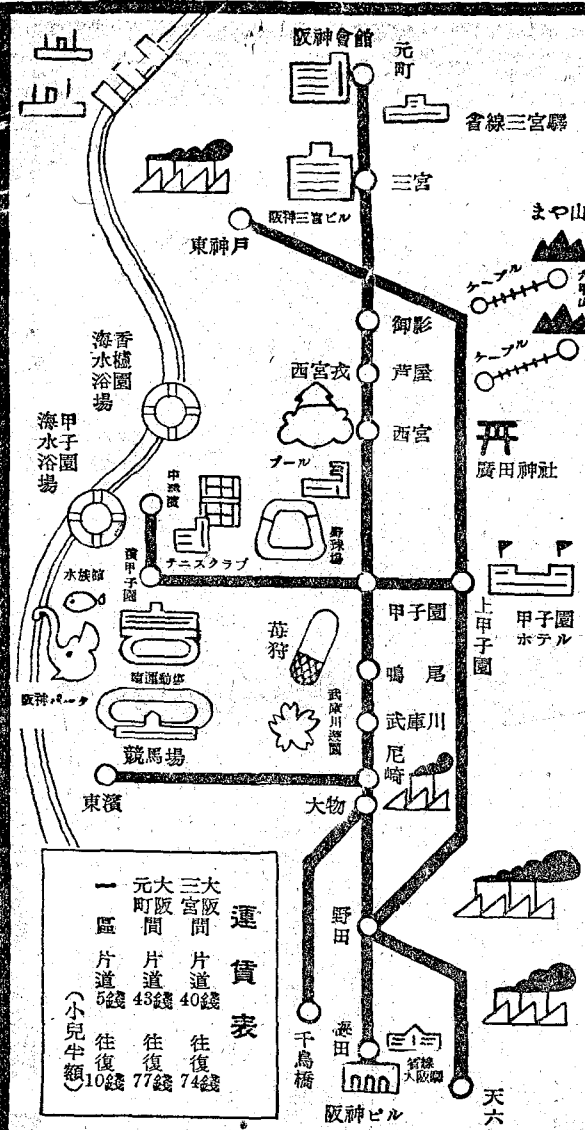
大阪市の交通中心点より  
神戸市の中央、元町まで

特急運轉

午前五時より  
午前零時まで

頻發

またずに  
のれる  
阪神電車  
で



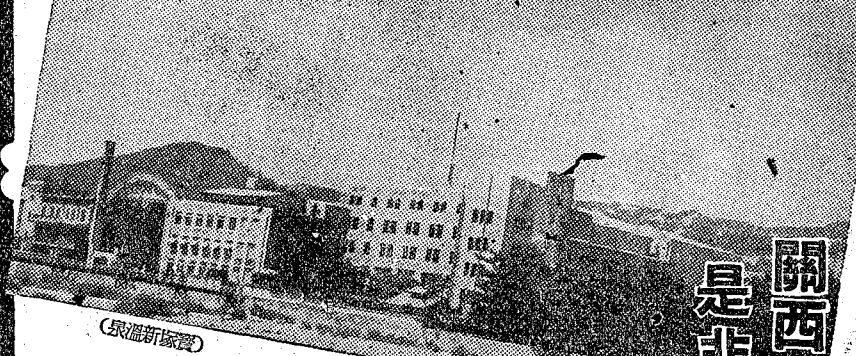
運賃表		
元大	三大	大阪
町間	宮間	間
片道 5銭	片道 43銭	片道 40銭
往復 10銭	往復 77銭	往復 74銭
(小児半額)		

阪神電車



……地勝健の一本日

# カタカラカツ!



(温泉新家)

関西御旅行の節は

是非お立寄り下さい

健全明朗一家揃って樂しめる  
演劇文化の最高峰

## 寶塚少女歌劇

座席券 卅五錢均一

施設完備を世界に誇る

## 寶塚新温泉

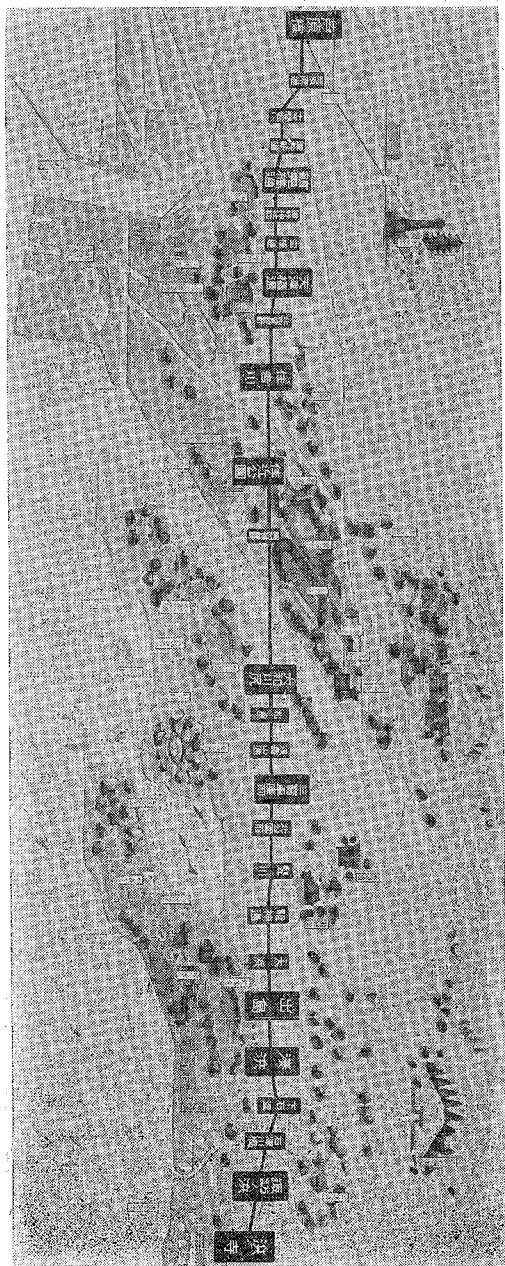
寶塚新温泉 寶塚ルナパーク  
寶塚動物園 寶塚熱帯動植物園  
寶塚植物園 寶塚昆虫館  
共通入場料 三十錢(小兒半額)

春は花、秋は紅葉とりどりに  
興趣深き四季の健康地

## みのお公園

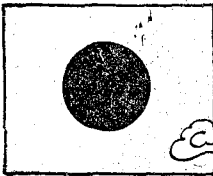
大阪より往復四十八錢 神戸より往復一円

# 阪急電車

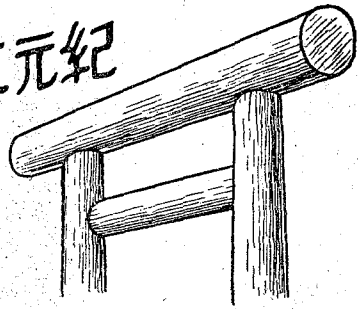


大阪市住吉區濱口町四四三

# 阪堺電鐵株式會社



年百六千二元紀



# 聖蹟史蹟 輝線沿阪京

國威宣揚武運長久祈願

## 桃山御陵

京阪線  
もみやま下車

石清水八幡宮

石清水八幡宮前  
下車

伏見稻荷神社

稻荷神社前  
下車

水無瀬神宮

新京阪線  
大山駅又八  
櫻井駅下車

楠公櫻井駅址

宇治・嵐山・醍醐

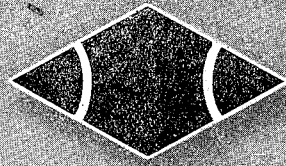
石山寺・三井寺・坂本

比叡山・八瀬・大原

京三都  
四條大宮

# 京阪電車

大阪  
六天  
橋滿天



# アスファルト

フロンアスファルト  
 コンクリートアスファルト  
 ストールアスファルト  
 ウォーターアスファルト

小倉石油株式会社  
 専属販売店

株式  
 會社

## 南部商會

本店 東京丸の内三菱六号館・電話丸内 1654-5014  
 出張所 名古屋市南区南大津通東陽ビル・電話中国 2785 番



事工装舗路道トルアフスア

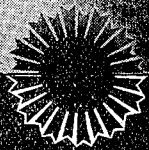
事工装舗トルアフターオウ割乳膏瀝

賣販理代トルアフターオウ・トルアフスア倉小

賣販造製グソイフルヒサア

# 社會式株木工市都

地番二目丁一橋京區橋京市京東  
番八六二二(50) 橋京 話電





昭和十五年

道路の改良

一月一日

第二十二卷

第一號

東海に不死の國ありと、皇紀二千六百年の我皇國は今や其の躍進の雄姿を鮮やかに宇内に現はし來つた。曾て竹冷宗匠は「元旦やわれは日本に生れたり」と吟して日本國民たるの誇を示したが吾曹また同感である。自我の國、共產の國、個人主義の國、政權爭奪の國の國民たらざるを感謝する。

東海の孤島民族は雌伏二千六百年にして其の意氣は將に世界を呑まんとするに至つた。某國は驚嘆し、某國は嫉視し、某國は狼狽し、某國は敵對する。斯の環境に在るの時帝國は一步を誤れば或は救ふべからざる孤立の國となり、四面楚歌の民となることを保し難いのである。而かも日支事變に即して長期の戦ひを爲しつゝある。念ふに今日の戦は精巧なる科學戰であるが故に兵器の科學化と經濟力の増進、産業の擴充と體位の向上と民族性の強化とか戰爭を勝利に導くの鍵であると思はる。然り兵器の科學化は戰には必須的な事である。戰は巨額の資源を要求する。資源の涵養には、産業の擴充が遂行せられねばならぬ。直接に兵器を執りて戦ふ人、銃後に在りて資源の開發、産業の擴充に従ふ人は、其の勞苦に耐ゆるの健康がなければならぬ。之れ何人も異論をさしはさむの餘地がない。

國民として最大の犠牲に甘んじ、深甚なる困苦に耐へ、極端なる不便を忍び全面的統制に服する義務を甘受することは我等日本國民の特徴とする所である。乍去人並の交際、人並の衣食住、人並の慰安、人並の享樂、人並の子女教育、人並の體面は之を生活上に認めねばならぬ。否此等を缺如しては何處に國民として永遠に存在する國家の要求に適應し得べき途がある。

人間は物の世界にのみ其の生命力を保有するものでない。實は精神界に於てこそ生命力の大部分が保持せらるゝものである。之を社會の實際に徴せんか、這次の日支事變に直面したる我等國民は政府と軍部の人々に由つて、事變の重大性と必然性とは一應の理解が與へられてゐる。然るに物價の統制が實行せらるれば闇取引が熾に行はれて、生活の必需品の如き甚しき不足を告げ、經濟警察力を以てしても殆んど之を制止し得られざる觀がある、之れ果して如何なる原因が勃發するのなるか。舉國一致忍持久の旗印の下に精神總動員が強調せらるれば、其處に相剋摩擦の醜き事件が勃發する、之れ何に依つて然るか。或は云はん、獨逸や伊太利の如き今日統制の行き届きたるの成績を見るも、既往數年間は大なる物議を起し紛争を生じたものである。我國獨り然らざるを得ない。と愚かなるかな此の説である。我日本民族は個人主義的な優勝劣敗に依つて成立せる國家の惡しき足跡を辿るべきの要何處にかある。借問す、精神力の向上、道德性の涵養を閑却して、現實のみに没頭する所に如何なる現象を出現するか。

吾曹は皇紀二千六百年の年頭に當り、皇運の無窮を念願し奉ると共に、國民の品性陶冶の着想最も博厚ならんことを切望せざるを得ないものである。(洮民)